

当案内及び過去に発行した案内は弊社ウェブサイト(<http://www.medience.co.jp/>)よりPDF形式にてダウンロードできます。

新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素より格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、弊社では皆様のご要望にお応えするため、検査の新規拡大に努めておりますが、この度、下記項目の検査受託を開始することとなりました。

取り急ぎご案内致しますので、宜しくご利用の程お願い申し上げます。

敬具

記

新規受託項目

- [45430] EWS-Fli1キメラmRNA遺伝子解析 (ユーイング肉腫)
- [45431] TLS-CHOPキメラmRNA遺伝子解析 (脂肪肉腫)
- [45432] SYT-SSXキメラmRNA遺伝子解析 (滑膜肉腫)

受託開始日

- 平成27年5月26日 (火)



骨軟部腫瘍キメラmRNA遺伝子解析

骨軟部腫瘍は、骨や筋肉に原発する腫瘍（がん）で一般に〇〇肉腫（sarcoma）と称されます。発生頻度が少ない比較的希少な腫瘍で、代表的とされる骨肉腫でも年間発生数が150～200件程度ですが、TNM分類がⅢ以上で特に遠隔転移がある症例では極めて予後不良とされます。また、骨軟部腫瘍は種類が非常に多く、他の固形腫瘍と比較しても病理診断による病型分類が困難とされています。

近年、染色体・遺伝子レベルでの様々な異常が見いだされ、ある種の骨軟部腫瘍において特異的に存在することが明らかになり、これらの染色体異常のほとんどが相互転座によるキメラ遺伝子が原因であることが分かりました。キメラ遺伝子は異なる染色体の一部が入れ替わる相互転座により生じる融合遺伝子のことで、ギリシャ神話に登場する怪物の名称に由来します。その遺伝子融合に関わる多くの遺伝子は転写因子や増殖因子、あるいはそのレセプタをコードしており、多くの融合がイントロンどうしの間で形成されているためそのまま転写・翻訳され、異常な融合蛋白が産生されることとなります。

この度弊社では「骨軟部腫瘍キメラmRNA遺伝子解析」として「EWS-Fli1（ユーイング肉腫）」、「TLS-CHOP（脂肪肉腫）」、「SYT-SSX（滑膜肉腫）」の3種の検査受託を開始します。

従来、骨軟部腫瘍キメラmRNA遺伝子解析には、研究施設等での染色体レベルの検査としてFISH法が用いられてきましたが検査工程も多く煩雑で、検査費用が高価であるという難点がありました。これに対しRT-PCR法は比較的簡便でかつ安価であるという特長があります。

「骨軟部腫瘍キメラmRNA遺伝子解析」は病理組織学的分類において60～70種類以上もあるため、診断が困難とされる骨軟部腫瘍の補助診断に有用です。

【骨軟部腫瘍キメラ mRNA 遺伝子解析の融合遺伝子】

検査項目名	腫瘍組織型	標準表記名	染色体転座
EWS-Fli1キメラmRNA遺伝子解析	ユーイング肉腫	EWSR1-FLI1	t(11;22)(q24;q12)
TLS-CHOPキメラmRNA遺伝子解析	脂肪肉腫	FUS-DDIT3	t(12;16)(q13;p11)
SYT-SSXキメラmRNA遺伝子解析	滑膜肉腫	SS18-SSX	t(X;18)(p11;q11)

検査要項

項目コード	45430	45431	45432
検査項目名	EWS-Fli1 キメラmRNA遺伝子解析 (ユーイング肉腫) ^{*1}	TLS-CHOP キメラmRNA遺伝子解析 (脂肪肉腫) ^{*1}	SYT-SSX キメラmRNA遺伝子解析 (滑膜肉腫) ^{*1}
検体量 / 保存方法	新鮮組織 50mg (4mm角) ^{*2} / 冷蔵 [容器番号: 43]		
検査方法	RT-PCR法		
基準値	設定なし		
所要日数	8～14日		
検査実施料	2,100点 ^{*3,4} ([D004-2] 悪性腫瘍組織検査 [1] 悪性腫瘍遺伝子検査)		
判断料	34点 (尿・糞便等検査判断料)		
備考	*1: ご依頼に際しては、『遺伝子検査依頼書』をご利用下さい。 *2: 腫瘍組織を採取後、速やかにRNA安定化剤入り組織保存容器 (容器番号: 43) に移し、冷蔵保存でご提出下さい。 *3: 悪性骨軟部腫瘍の詳細な診断および治療法の選択を目的として患者本人に行った場合に限り、患者1人につき1回に限り算定できます。算定に当たっては、その目的、結果および選択した治療法を診療報酬明細書の摘要欄に記載する必要があります。 *4: 「悪性腫瘍遺伝子検査」、「造血器腫瘍遺伝子検査」または「免疫関連遺伝子再構成」のうちいずれかを同一月中に併せて行った場合は、主たるもののみ算定できます。		

参考文献

- 孝橋賢一, 小田義直: 最新医学 67: 437-444, 2012.
久岡正典: 医学のあゆみ 229: 963-967, 2009.